

うしお

第 161号

昭和44年11月

目 次

トカラ群島浮魚魚群調査速報	漁 業 部	1
定 置 観 測 (10月分)	増 殖 部	15
漁 場 観 測 速 報 (10月分)	〃	16
10 月 の 漁 海 況	漁 業 部	17
奄 美 短 信	大 島 分 場	18
業 務 概 況	編 集 部	20

鹿児島市城南町20番12号 ☎892

鹿児島県水産試験場

トカラ群島浮魚魚群調査速報

漁業部

まえがき

薩南海域のアジ、サバ類を対象とする旋網漁業は近年不漁の傾向がつづき、新漁場の開発を余儀なくされている現状である。このようなことから鹿児島県水産試験場では、昭和38年より毎月既存漁場での初漁期、或いはヤがて漁場形成があると考えられる海域でのアジ、サバ等の分布状況を魚探と各種漁具を用いて調査し、その結果をあらかじめ定められた無線連絡によつて報告している。

従つて今回は漁場開発の目的からトカラ群島全域にわたつてアジ、サバ類の浮魚を対象に実施したのでその概要を速報します。

今後とも機会あるごとにトカラ群島方面を実施する予定である。卵稚仔、プランクトンは査定がおくれているので調査回数を重ねるに従つて追々報告します。

調査日 昭和44年10月21日～10月30日

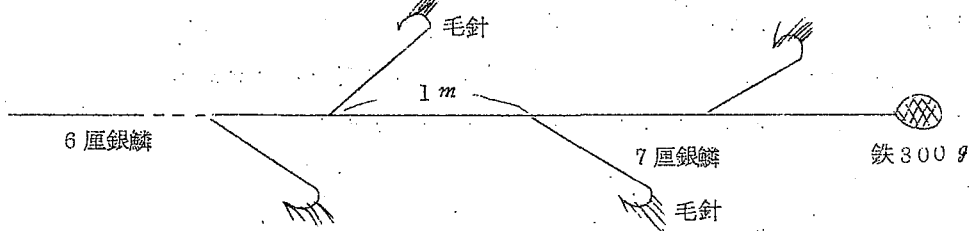
(旧暦9月11日～20日)

調査船 さつなん 116吨 520馬力

調査海域 別図参照

調査漁具 魚種の確認をなすため下記の漁具を使用した。

1, 一本釣(サグリ釣) 4組(50m用)



2, アジ底刺網 2反(綿糸6本5節)

3, 4枚型トロール網 1統

4, 集魚灯 左舷 3組(1組500W×5個)

右舷 2組(1組500W×5個)

5, 水中灯 1KW1個

調査器具

1, 魚群探知機(垂直用) D-4型 海上電機

(前斜用) D-33型 海上電機

2, 電磁海流計 理研

3, 稚仔ネット

4, プラントネット

5, 海洋観測一式

経過概要

10月21日(旧暦9月11日)

09, 55 鹿児島出港

12, 40 山川入港(給水のため)

15, 10 st.1 (長崎鼻前) 海洋観測, 終了後200m線沿いに馬毛島
西から一湊沖へ航走, 魚群反応なし。

22, 15 st.4 (永田灯台前) 海洋観測

10月22日(旧暦9月12日)

§ 中ノ曾根 (00, 05~00, 50) 魚群反応なし 最浅水深155m

§ 上ノ瀬 (01, 30~02, 00) 魚群反応なし 最浅水深35m

§ サング曾根 (04, 20~05, 40) 魚群反応なし 最浅水深145m

§ メセダコ (08, 50~09, 15) 魚群反応なし 最浅水深340m

§ 臥蛇島 (12, 05~14, 00) 魚群反応大 8 小 2

○ 立神の西0.8裡でサグリ釣, 20分間でムロアジ9尾を釣る。

(体長25.5~30.4cm, 体重220~360g)

水深 50~85m

魚群層 25~50m

○ 島の南側0.2裡でサグリ釣, 17分間でムロアジ12尾を釣る。

(体長25.6~32.5cm, 体重200~450g)

水深 80~90m

魚群層 14~80m

[写真1]

○ 島の東側では水深60~80mに魚群反応が多かった。

§ 小臥蛇島 (14, 40~15, 20)

島から0.5~1.8 湊の周辺を探索するも反応なし。

§ 権會根

18,00水深96~104 mにアジ底刺網を2反投網。

これより翌日の早朝までゴンゾネタコ, 平島を含めて探索, 集魚灯にて漂泊したが反応はなかつた。

10月23日(旧歴9月13日)

§ 権會根 魚群反応中7, 小2

○ 昨夕投入した底刺網を06,45から揚網にかかる。

漁獲全くなし, ただちに魚群探索にかかる。08,10反応があり, サグリ釣り, 08,25~08,50(25分間)ムロアジ44尾を釣る。

「写真2」 (体長27.8~33.2 cm, 体重280~460 g)

水深 85 m内外

魚群層 22~68 m

○ 4枚型トロール網を海底から5~10 m浮上させて曳網していたが, 底触した途端に船は停止した。浮子方のワイヤーロープ, 袖網の損傷で漁獲なし。

§ 平島 魚群反応大3

○ 昨夜島の周辺を探索したが, 魚群反応はなかつたので再度12,00より調査にかかる。12,10南側0.5 湊で反応がありサグリ釣をなす。

15分間でムロアジ23尾を釣る。「写真3」 (体長24.5~32.7 cm, 体重200~400 g)

水深 58~50 m

魚群層 18~33 m, 44~50 m

○ 東側で水深70~85 mで大きな魚群反応があつたが, 潮流が早く風が強かつたためか, 釣れなかつた。

§ 五号會根 魚群反応大1, 中2

22,20魚群反応があつて(水深200 m, 魚群層110 m)集魚灯, 水中灯を点灯させ0,50まで頑張つてサグリ釣をやつたが, 魚群は表面より60 mます浮上したがどうしても釣れなかつた。

10月24日(旧歴9月14日)

§ 中ノ會根 (03, 30~06, 10) 魚群反応中1
水深175m, 魚群層80~100mに反応があり, 集魚灯, 水中灯で浮上に努めたが, 風が強クサグリ釣では釣れなかつた。

§ 横ガン會根 魚群反応大4, 小8

○ 07, 10より調査にかかる。水深110mの海底に小さな魚群反応が認められたのでサグリ釣にかかる。魚群は45mまで浮上したが釣れず。

○ 08, 50水深90mの場所で大きな魚群反応があり, 20分間でムロアジ26尾(体長25.4~35.5cm, 体重240~560g), ツンブリ(メキチ)1尾(38.6cm, 730g), シイラ2尾(34.0~45.0cm, 500~715g)を釣る。 「写真4」

水深 90~106cm

魚群層 42~80cm

○ このほか水深76~90mにも底層に魚群反応があつた。

§ オガンミツ, 馬太郎

13時から19時に調査したが, 瀬礁の範囲は小さく魚群反応はなかつた。風強くなり横当島東で漂泊す。

10月25日(旧暦9月15日)

§ 横当島 (07, 30~10, 00) 魚群反応大1, 小3

西側で水深70~100mで底着した小さな魚群反応が3群あつたが, 延50分間サグリ釣をなしたが釣れなかつた。

§ 上ノ根岐 (10, 10~11, 15) 魚群反応大1, 小1

この小さな島の周辺は魚群反応が多かつたが, 全く釣れなかつた。(水深40~150m, 魚群層は底着)

§ 濁會根 魚群反応大2, 中1

○ 12, 40水深190mの瀬際に魚群反応(130m)があり, 常に魚群をとらえながら船を流していたところ40分後15mまで浮上した。サグリ釣の結果ムロアジ7尾を釣つた。(体長29.2~31.6cm, 体重310~400g)

○ このほか2群の反応があつたが釣れなかつた。

§ 白浜會根

一晩中漂泊して集魚灯を点灯し探索したが、水深60mに底着した魚群反応をみたが釣れなかつた。

10月26日(旧暦9月16日)

§ 白浜曾根 魚群反応中1, 小2

昨夜から今朝にかけてしばしば魚群反応があるにもかかわらず集魚灯, 水中灯を点灯して釣れず。06, 10ムロアジ1尾(32.0cm 400g) シマアジ2尾(24.6~38.2cm 320~900g)をやつと釣る。

水深 100m

魚群層 50~100m

その後たびたび魚群は浮上, 沈下を繰り返したが全く釣れなかつた。

§ 宝島 (09, 30~11, 30) 魚群反応大2, 中4, 小2

この島の周辺には水深60m内外で小さな反応が点在しており, そのつどサグリ釣をなしたが釣れなかつた。

ただ東側の水深60mでシマアジ1尾(49.6cm 1,700g)を釣つただけであつた。

§ 小宝島 魚群反応大1

宝島から小宝島へ広い範囲にわたつての瀬が存在しており, 小宝島南3.1漕, 水深90mでムロアジ2尾(28.8~31.3cm, 380~420g)とシマアジ1尾(37.2cm, 1,000g)を釣つた。このほか小さな1群の反応があつたが釣れなかつた。

§ 悪石島 (16, 50~18, 50) 魚群反応大1, 中2, 小2

南側0.7漕に2群 水深200m以上 魚群層40m

水深200m以上 魚群層160m

南東側0.3~0.5漕に2群 水深75m 魚群層50~75m

「写真5」 水深50m 魚群層46~50cm

北西側0.6漕に2群 水深58m 魚群層28~39cm

水深58m 魚群層48~58cm

いずれの魚群も釣れず魚種確認はできなかつた。

§ スワノセ東曾根

19, 50より集魚灯を点灯して漂泊, 水深60~80mでたびたび反応

があつたが、魚群は浮上せず釣れず。

10月27日(旧暦9月17日)

§ スワノセ島 魚群反応大4, 中1, 小3

- 06, 00より調査, 元浦0.4湮, 水深40mに魚群多くサグリ釣をしたがシマアジ2尾(26.5cm 360g, 24.6cm 260g)だけ釣れる。
- 潮見崎東0.5湮, 水深110mでも反応があつたが釣れず。
- 風が強く10, 10南東側に仮泊(水深17m), ここでムロアジ18尾を釣る。(体長29.0~33.8cm, 体重300~420g)
- 夜に入つての集魚灯を点灯, 海底には大小の魚群反応があるものど5しても浮上せず, 又漁獲されなかつた。水深80~100m

10月28日(旧暦9月18日)

§ 中ノ島 魚群反応大5, 中4, 小3

- 07, 40中ノ島灯台の前で水深100m附近に魚群反応があつたが(魚群層50~90m)1時40分にわたつてサグリ釣を繰り返したがどうしても釣れなかつた。しかたなく09, 20一周調査にかかる。
- 鰐崎から里村の前にいたる沿岸寄りて小さい魚群反応がしばしばあつたが釣れなかつた。
- 11, 30再び灯台の前にもどり探索したところ水深46mの瀬上に大きな反応があつた。
- 12, 15~13, 00の45分間に2回流してムロアジ3.8尾を釣つた。
「写真6」(体長24.1~32.5cm, 体重200~430g)

§ 口ノ島 魚群反応大2, 中1, 小2

- 13, 55東端0.5湮, 水深200m以上, 魚群層63~86mの反応があり, 反転して探索したが発見できなかつた。
- 15, 00北西側の0.5湮(村のある)水深43m; 魚群層26~34mの小さな反応, 長いことかかつてやつとムロアジ2尾(32.5~34.0cm, 410~450g)が釣れた。
- セリイ岬北0.5湮附近にも反応があつたが釣れなかつた。

§ 芽 瀬 魚群反応大1, 小1

- 19, 15水深72mで魚群層20~34mのやや大きな魚群反応があつ

たが釣れず、その後探索したが全く反応はなかつた。

§ 上ノ瀬，中ノ會根

帰港の途中立寄つてみたが反応はなかつた。

調査の結果

今回の調査は月夜の期間であり、又日数の制約で通り一遍で充分なことができなかったが、次のようなことがいえるのではなからうか。なお魚種の確認は一本釣、網類を使用した。網類は船の装備、底質から不充分であつたため全般にわたつて毛針による一本釣を使用した。これによつて、ややもすると漁具の選択性によつて限られた魚種の確認になるのではと考えられたが、今までの薩南域での調査ですでにアジ、サバ、カタクチなどが釣れているので充分であるといえよう。今回の調査でムロアジ、シマアジ、コバンアジ、ツムブリ、シイラのほか底魚のベラ、アカゾウ、アカヤガラ、カワハギなどが釣れた。

1. 海況

表面水温と海流の測定値を第3図に示した。今回の10月下旬における表面水温はトカラ全域にわたつて25℃台を示していた。これを昨年同期に比べると（西日本海況旬報）今年はやや高目になつている。（薩南域の近海でも9～10月はやや高目であつた）中層では場所によつてやや違いはある。100m層をみると中ノ島とスワノセ島間で21.5℃で最も高く表層の水温と殆んど変りない状態であつたが、そのほかの地域では21～23℃台を示していた。又200m層ではスワノセ島、平島以南では18～19℃台、以北では14～21℃台と温度差は大きかつた。

海流測定によるとほとんどの地点で南東流を示し、臥蛇島、口ノ島、スワノセ島で1.0～1.5ノットの強流であつた。従つて黒潮本流域はこの方面で屋久島を相当離岸してしているものと想像された。権會根ダコ周辺域の南西流は弱い反流域と思われる。又横当島の南域にも1.1ノットの強い南東流が観測された。

2. 分布について

トカラ群島はムロアジが広い範囲におたつて分布しているようである。魚探反応による出現数や一本釣で多く釣れた所は臥蛇島周辺、権會根、平島周辺、

横ガン曾根，悪石島周辺，スワノセ島，中ノ島周辺等であつた。

釣れた魚はムロアジのほかシマアジ（ヒラアジ），コバンアジ，ツムブリであつたが；その数は少なく若干分布している程度であつた。

ムロアジの分布域は全般的にみて島の周辺と瀬礁域にみられ，水深200m以上の深所ではほとんど反応はなかつた。又，サバ，マアジ，カタクチ等については全く漁獲されなかつた。

このようにトカラ群島域はムロアジの分布域で；サバ，マアジ，カタクチなどの分布はほとんどないのでなかろうかと考えられる。しかし時期によつては次のような資料がある。

- (1) 昭和43年3月（例年3～4月）にカツオ船によつてスワノセ島東5渚で6～11cmのサバ仔が採捕されている。（鹿水試資料）
- (2) 昭和42年4月奄美大島の北方でカタクチの反応があり漁獲された。（南西海区水研資料）
- (3) 奄美大島竜郷村沖と大和～名瀬の沿岸域（秋期）で大型のゴマサバが釣れたこと。（鹿水試大島分場資料）

これらの資料から，トカラ群島域にも時期によつてはサバ，カタクチの分布も考えられようが，今のところはずきりわからない。

3 魚群反応の状況

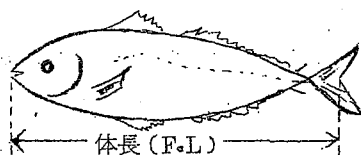
調査域は水深200m以内を原則としたので，島周辺は急傾斜の海底形状であるためごく沿岸密りに接近せざるをえなかつたし，又操船上の危険性から昼間だけを調査して夜間を瀬礁帯の調査とした。

島周辺の魚群は，大方岬附近の凹凸のはげしい瀬上に多くみられた。権曾根，横ガン曾根等では平坦な海底にもしばしばみられ瀬際にも多かつた。

魚群層は場所によつて違いがあり，一概にはいえないが全般的には海底近くに反応が多かつた。代表的な反応の記録は写真のとおりである。

4 体長について

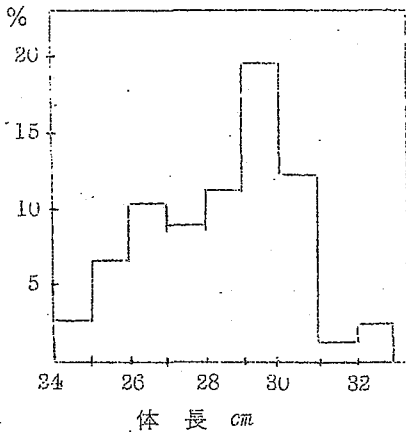
体長は下図に示した部位を測定した。



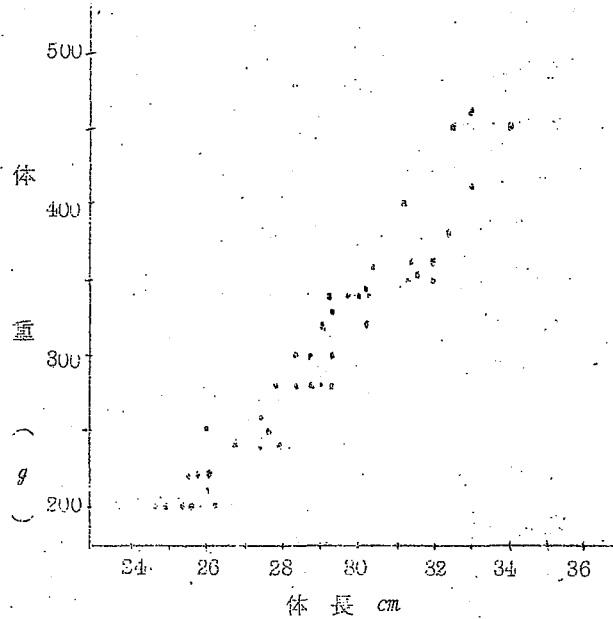
(1) ムロアジ

下図のとおり漁獲されたのは24~35 cmで29~31 cmのものが多かった。卵の状況はすべてのものが未熟なものであつた。

体重は200~540 gのもので、下の図は体長と体重との関係図であり、体長30 cmで330 g内外のものであつた。(調査尾数182尾)



ムロアジの体長組成



ムロアジの体長と体重との関係

(ロ) シマアジ (ヒラアジ)

漁獲されたのはわずか6尾にすぎなかつたので体長組成はわからないが、24.6~49.6 cmのものが釣れた。

(ハ) その他

シイラ 2尾 34.0 cm - 500 g, 45.0 cm - 715 g
 ツムブリ 1尾 38.6 cm - 730 g
 メバル 1尾 34.4 cm - 710 g
 ベラ 30尾 15~17 cm, 1尾300 g内外

問題点

魚探反応による出現総数は94群であつた。(大36群, 中25群, 小33群)
このうち一本釣による魚種確認数は18群であつた。魚種の確認はほとんどムロアジであつたため, 確認できなかつた魚群についてもムロアジ群であろうと推察される。

経過概要に魚群状況, 漁獲状況を述べているように1回毎の釣り人数は3~4人であつて, 漁獲尾数が多い時で権曾根のように25分間で44尾を釣つたこともあつた。

このように魚探反応の状況, 或いは漁獲状況等からみて資源量は多いのでなからうかと推察される。しかし次のような問題点が考えられる。

- 1, トカラ群島域は枕崎, 串木野, 阿久根港から距離が遠いこと。日数, 燃料費とムロアジの価格からみて操業可能域と考えられるだろうか。
- 2, 漁業形態は旋網, はね釣が考えられるが, ムロアジのはね釣はサバはね釣みたいには効果はなさそうである。

今回の調査は月夜の期間であつたためか全く集魚灯の効果はなかつた。

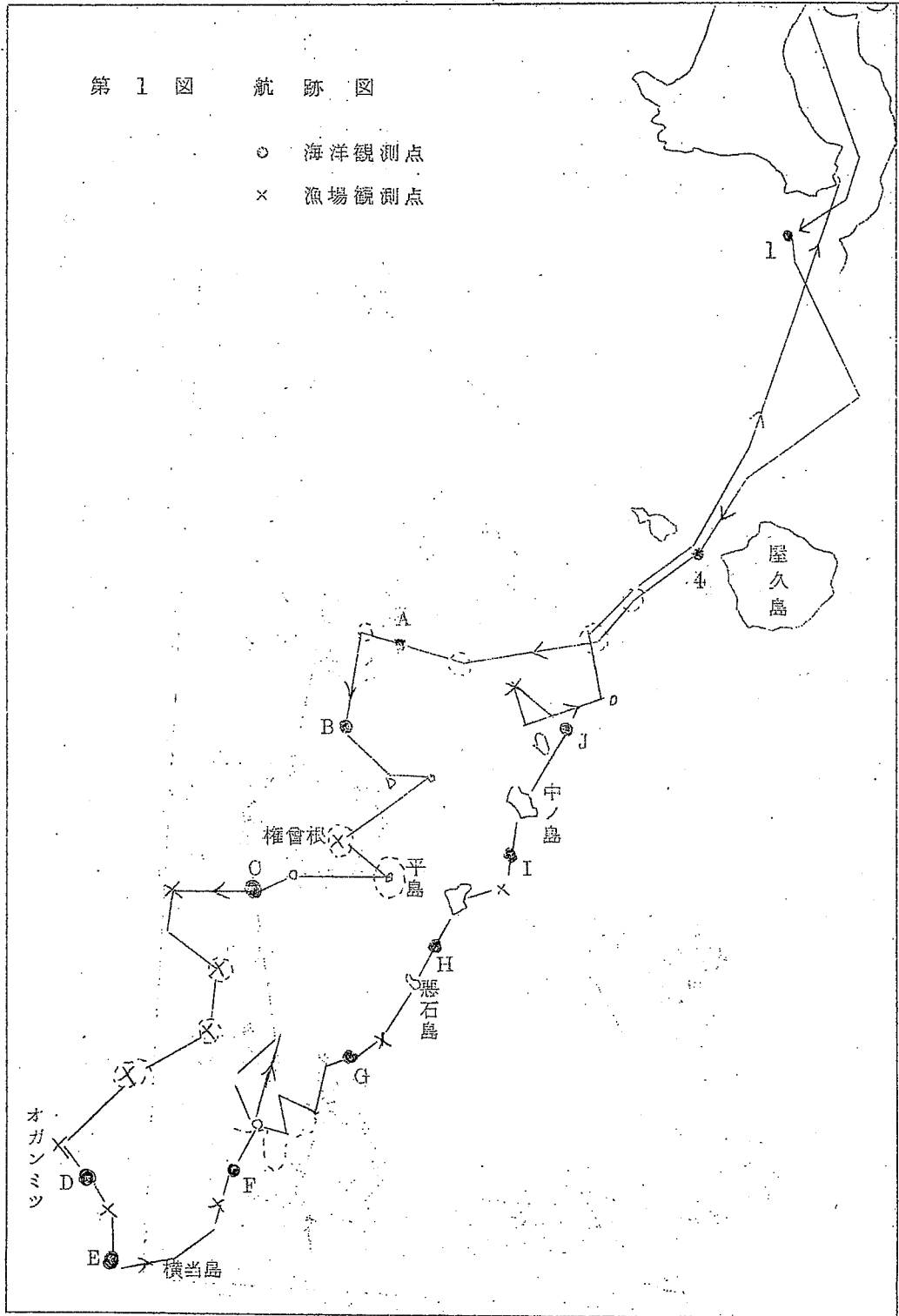
今後の調査にまたねばならない。

- 3, 魚群は島周辺のごく沿岸寄りであつたこと, 操船上の困難点があり, そして魚群を容易に網で巻きうる深い場所(沖)へ誘導できるだろうか。
- 4, ある程度集魚灯によつて操業が可能であれば小型旋網, 棒受網が有利であろう。しかし, 遠距離, 気象条件から小型船は無理だろうが。

このほか問題点もあろうが一考されてはいかががでしょうか。今後, 時期による魚群調査を実施していきたい。

第 1 図 航 跡 図

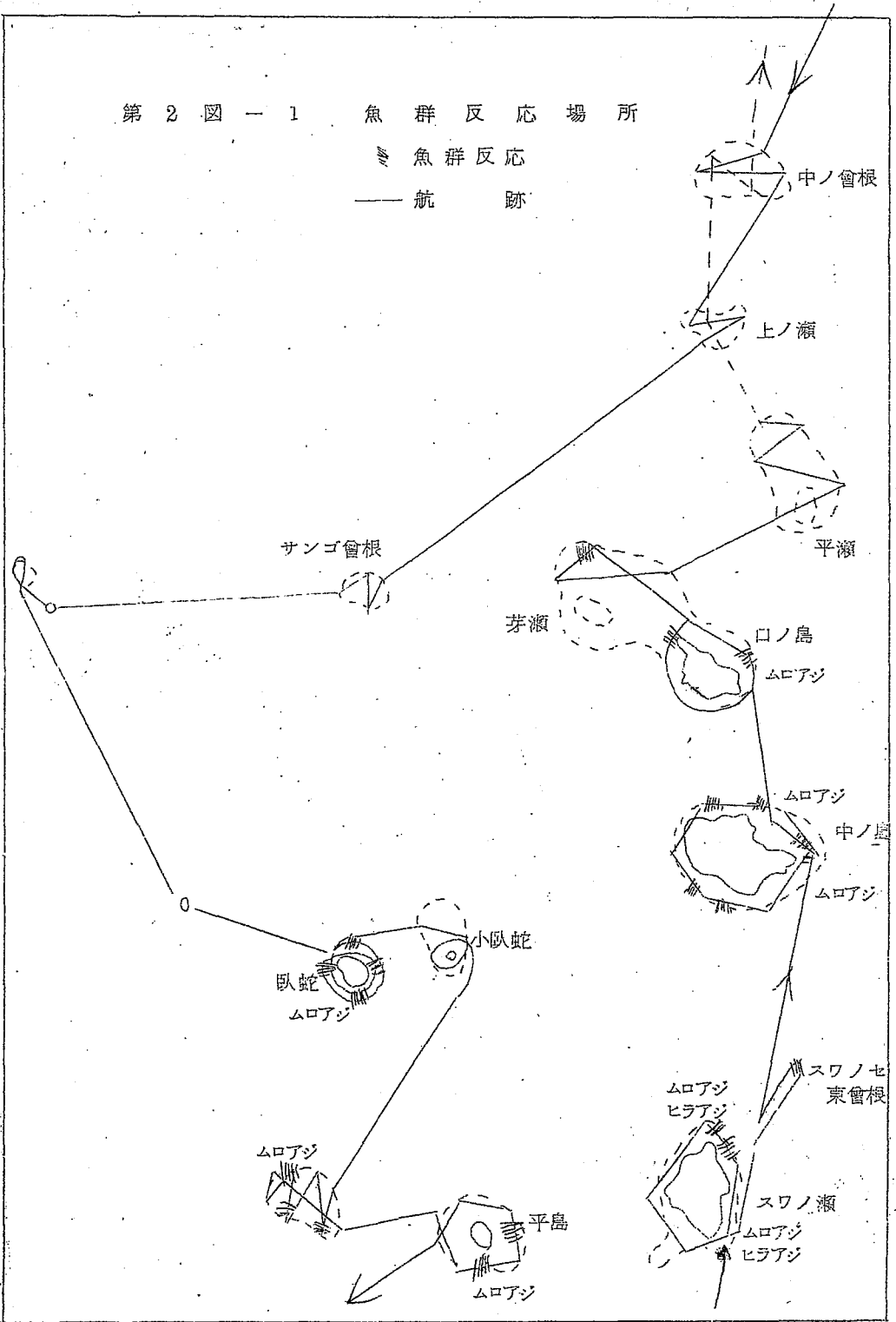
- 海洋観測点
- × 漁場観測点



第 2 図 - 1 魚 群 反 応 場 所

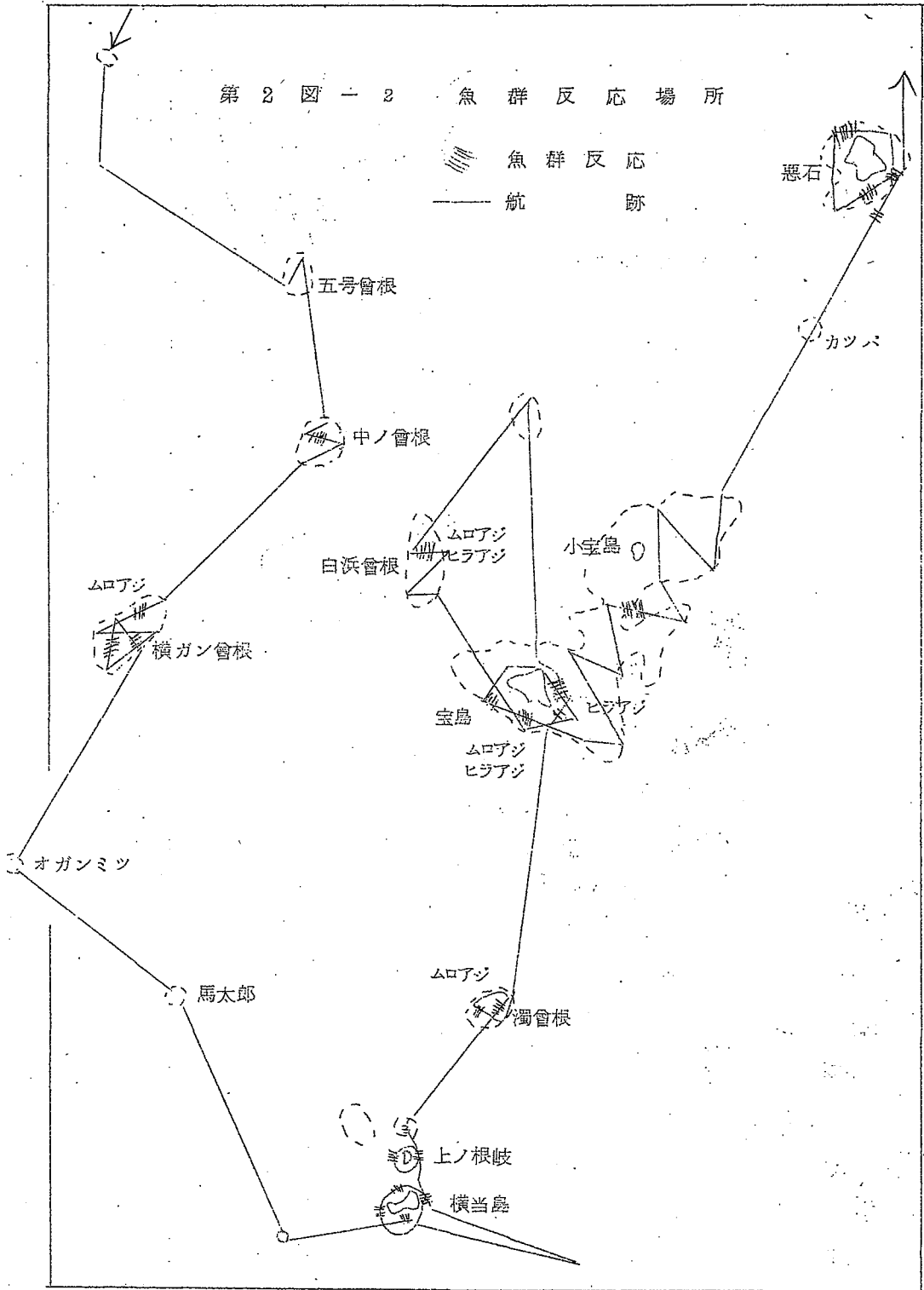
魚 群 反 応

航 跡

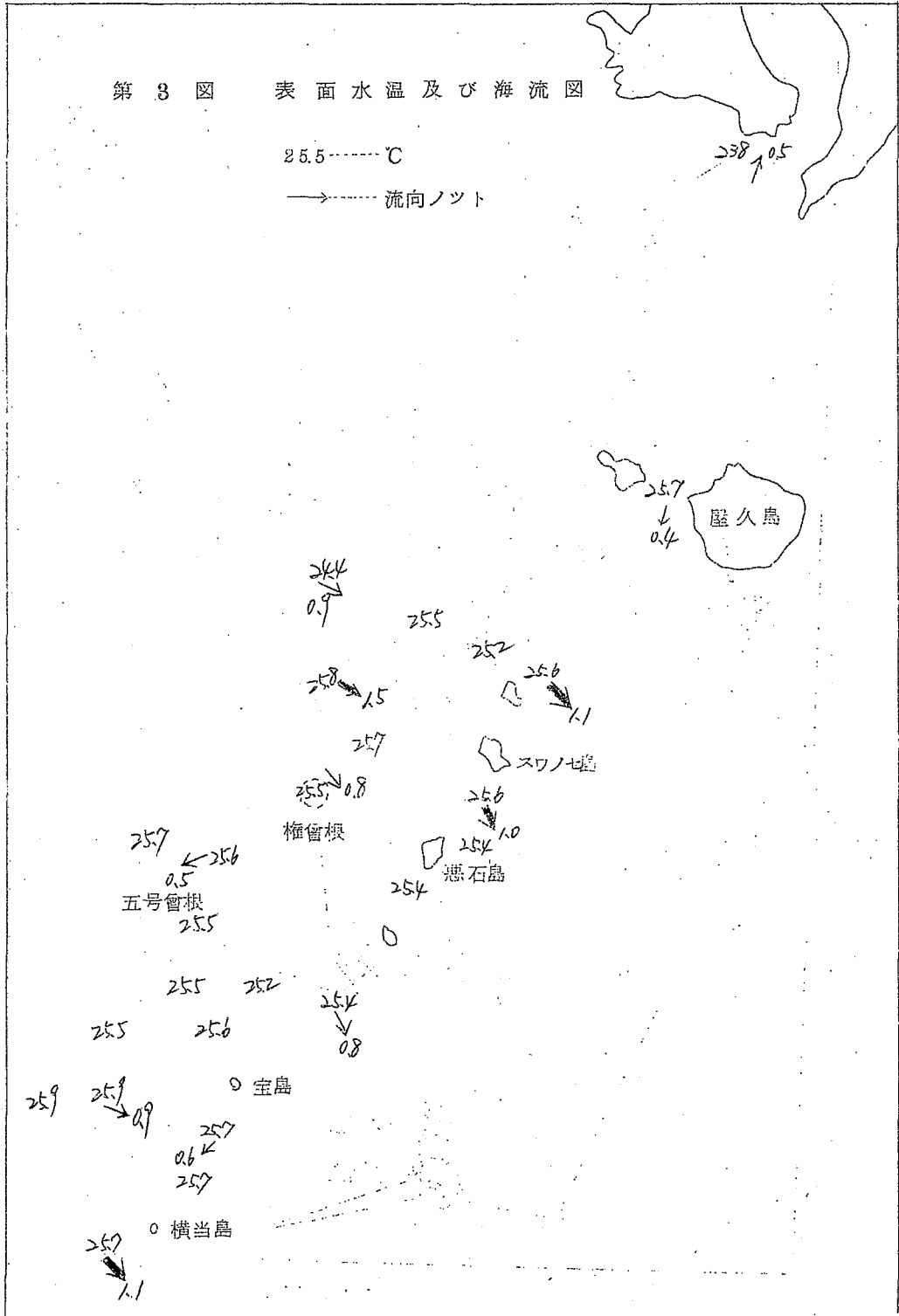


第 2 図 - 2 魚 群 反 応 場 所

魚 群 反 応
航 跡



第 3 図 表面水温及び海流図

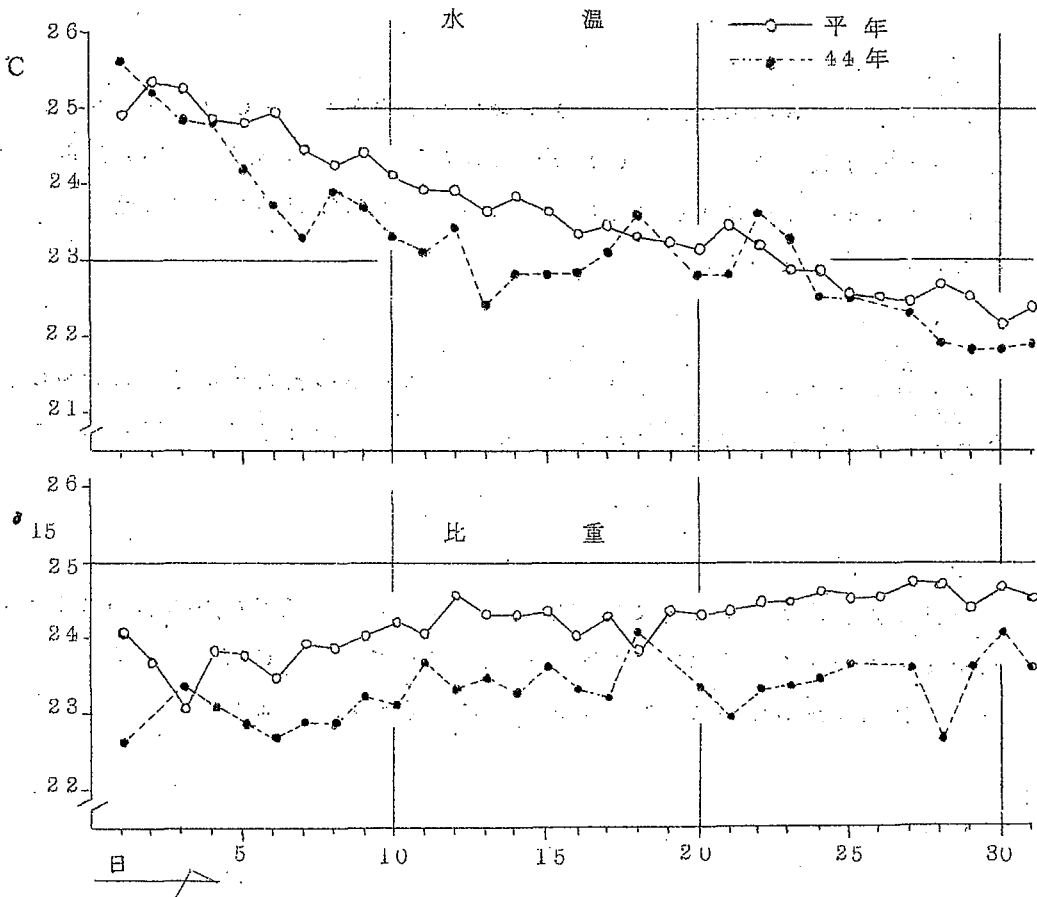


定 置 観 測 (10月分)

増 殖 部

○ 旬平均水温、比重：水試前満潮時表面

旬	水 温 ℃				比 重 15			
	本 年	前旬差	前年同期差	平年差	本 年	前旬差	前年同期差	平年差
上	24.25	-2.53	-1.11	-0.53	22.94	+0.13	-0.69	-0.78
中	22.97	-1.28	-0.95	-0.57	23.45	+0.51	-0.39	-0.79
下	22.44	-0.53	+0.53	-0.25	23.42	-0.03	-0.90	-1.12
月平均	23.23	-3.99	-0.37	-0.41	23.27	+0.79	-0.69	-0.90



漁場観測速報（10月分）

増殖部

観測値 旬別	浦内		水成川		牛根	
	最高	最低	最高	最低	最高	最低
上	25.30	24.07	25.81	24.68	25.20	24.30
中	23.67	22.44	24.39	23.28	23.70	22.90
下	22.77	21.45	23.52	22.75	22.91	22.36
月平均	23.87	22.62	24.54	23.55	23.90	23.16
前月差	-4.37	-4.11	-	-	-3.50	-2.36
前年差	+1.48	+1.47	+1.39	+2.35	-0.52	+0.03

○ 浦内

9月の水温に較べて最高（平均）、最低（平均）とも4℃以上も下り最高で23.87℃、最低で22.62℃となつてきた。しかし昨年度の同期と比較した場合最高、最低ともに1℃以上の高温である。これは天候が順調で晴天がつづいたためと考えられる。

○ 水成川

当場の手違いから9月の測定を完全実施出来なかつたため前月との比較は出来ないが、前年との比較では最高で1℃以上、最低で2℃以上高温を示している。

○ 牛根

9月の水温に較べて最高で3.5℃、最低で2.36℃低くなつて順調に降下しているようである。昨年同期に較べた場合最高で0.52℃低くなり、最低では0.03℃高くなつているが昨年とはほぼ同様の水温といえよう。

1. 0. 月 の 漁 海 況

漁 業 部

※ 海 況

月のはじめ鹿児島湾口で25℃台、竹島、屋久島近海で26℃台を示していた表面水温は下旬には鹿児島湾口で23℃、竹島、屋久島近海で24℃台となり2℃前後水温は低くなった。黒潮流域の臥蛇島、平島近海は25℃台の水温で経過した。4月以降低目に経過していた本県近海域の水温も10月になってやつと平年並に回復した。

※ 漁 況

単 位 屯

業 種	漁 港	入港 隻数	総漁獲量	ア	ジ	サ	バ	ワ	ル	メ	カタクチ	ム	ロ	他	昨 年 同 期	
															隻	屯
近海 旋網	阿久根	大	33	494.9	66.8	393.4	7.2	1.0	11.7	14.8	97	748.7				
		中	67	494.1	85.8	114.4	0.9	113.8	83.9	90.3	82	405.5				
		小	93	237.4	60.2	21.7	34.0	20.0	7.8	93.7	124	181.2				
	枕崎	113	1939.1	327.7	898.9	101.8			269.2	341.5	79	1,026.6				
	串木野	100	1,074.5	281.8	583.7	22.8			109.9	76.3	61	343.9				
	内ノ浦	55	405.2	240.0	70.6	48.2			42.2	4.2	70	364.4				
	合 計	561	4,645.5	1,062.5	2,092.9	215.0	135.0	455.7	684.4	513	3,070.5					
カツオ	枕崎	大	36	988.8											43	1,181.1
		小	60	392.2											41	209.6
一本釣	山川	大	17	680.0											18	468.1
		小	36	271.7											39	230.3
サバ釣	枕崎	47	11.0	3.0	7.5				0.2	0.1	0					
	阿久根	8	11.2		10.3				0.3	0.5	0					
八田網	枕崎	86	193.7	50.9	41.7	0.4			9.7	90.7	100	367.6				
底曳網	内ノ浦	68	5.7												86	9.9
抄網	阿久根	39	29.7				0.1	23.4					5.1	30	20.6	
棒受網	阿久根	38	17.1	0.9	0.2	0.1	0.2	0.1	0.1	15.3	37	12.3				
定置網	内ノ浦	317	22.1	1.4			1.2		1.4	17.9	431	17.3				
ブリ 鯛付	山川	87	36.9												89	71.9

薩南海域の旋網による総漁獲量は先月より500屯程減少した。これはムロアジ類の大巾な減少とワルメの減少によるものである。小サバの漁は9月に引続き好漁でマサバの水揚げは去年の総漁獲量をすでに3,000屯程上廻っている。マアジの漁は先月に比べ若干上廻った程度であつた。西薩海域では先月好漁であつたマアジも去年のように続かず今月に入つて急減した。サバは量的にはそれほどでもないが薩南海域同様小サバの漁が良く去年の総漁獲量をわずかながら上廻った。大隅東部は豆アジが好漁で昨年同期の約2倍の漁。

カツオ一本釣の大型船は先月とはほぼ同じ水揚げでこれは昨年並の漁である。1統平均では31屯と昨年同期より4屯程上廻った。小型船は先月より1,000屯程水揚げは少なかつたが昨年同期に比較すると200屯程多い。1統平均でも昨年より1.5屯程良い7屯の漁であつた。

湾口のブリ飼付漁は不振で去年の半分程の漁獲であつた。

奄 美 短 信

此扱奄美地方も漸く秋の色深まり涼風が吹きまくつております。その涼しさの中にあつて恒例の古仁屋の竜宮祭も瀬戸内ならではの出しもので賑わいました。仮装の人魚あり、鞍馬天狗あり、ドンガバテヨおり子供達の目を楽しませてくれました。扱て奄美短信欄久しく御無沙汰致しました、書く種のあるまま記してみたいと思います。

島のむかしちゆう(昔の人)の言葉にワラベのちゆう真似(子供の人真似)とありますが、子をもつて始めてその言葉がしみじみ分る今日この頃である。

むかし6才になる一人息子をもつ土方夫婦がいた。墓石作りのそばに住んでいたためか一人息子は毎日金槌と石をもち自分の家の敷居で石遊び、そこで家主から追われるように飲屋近くに移つた。それからがいけない、毎日隣の女の子達を集めて瓶に水を入れてのお酒飲みゴツコ、御夫婦思案の末小学校近くに住いをかえたら毎日勉強ゴツコ、それで御夫婦も大喜こび、苦勞して大学迄出したら後に偉い人になり親をも引立てたと言う。実に環境が幾何に大切かと言うことが分るうと言うもの。私も勤めを終えて我家で将棋を指したり時にはジャンもするが、今幼稚園の坊が何時の間にか将棋を覚えて父ちやん手づまりしたなと生意気な言葉さえ吐く、それまでは良いとして、父ちやんリーチちばどんなこと、すると小学2年の女の子がリーチちばお何でもとれると言う事よと教える。いやはや全くやりきれない、それ以来我家ではジャンは一切やらないようにしている。

近頃の子供はテレビの普及のせいかな年に似合わぬ言葉さえ口にする。テレビの大学紛争を見て、物事の真意の分らぬ子供達が大学とは争いをするところと思わねばよいが、飛ぶ鳥も通わぬ文化呆つる島と言われたのも数年前迄のこと、子供達の知識も向上しつつある。その子供達も親と離ればなれになるのであろうか、古仁屋海岸で沖縄に出稼ぎに行く息子を見送る老夫母がいた。

キバテクヨー アンマジュウのクトヤ シンバイスラングヌシ キバテクヨー
(父、母の事は心配せずに元気で勧めよの意)

声をはりあげ浮島丸の船影が小さくなる迄目に涙して立つていた。

ハレイー イキユンニヤカナー ヤハレイ ワキヤクト フスレテ
チユンシマカチ イキユンニヤカナ
ハレイー アンマガ ワカゲヨー ヤハレイ ソロバン ツツミテ
コートガツコウ イキヤユム アンマガウカゲー

(ハーもう行くのか 私達の事を忘れて人の島に行くのかの意と、そろばん片手に高等科に行けたのもお母さんのお蔭という意)

とりとめない文となりました。

本土の皆様御健勝南の島より祈ります。

(Y S)

業 務 概 況

§ 本 場

漁、業、部

- 11月2日～10日 漁海況海洋観測(さつなん)
- 11月19日～21日 西海区ブロック漁海況長期予報会議 於：指宿市
- 11月24日～ ヨコワ調査(かもめ)
- 11月25日 漁業技術指定試験研究中間報告会 於：茨木
- 11月26日～ 魚群調査(さつなん)

増 殖 部

- のり養殖関係
 - * 10月28日～29日：垂水，採苗試験，スボ採苗展開
 - * 11月 6日：出水，のり共販協議会出席
 - * 11月 7日：垂水，芽付調査
 - * 11月10日：垂水，芽付調査，管理指導
 - * 11月11日：福山，のり養殖講習会
 - * 11月12日：谷山，芽付調査
 - * 11月21日：垂水，試験ヒビ管理
 - * 11月24日：垂水，試験ヒビ配布
 - * 11月25日：出水，のり養殖状況調査
- 真珠養殖関係(福山，竜ヶ水)
 - * 10月27日：付着硅藻取揚げ
 - * 10月30日：貝掃除，病害調査
 - * 10月31日：生長測定，病貝調査
 - * 11月 4日：漁場観測
 - * 11月 5日：鉄板取揚げ
 - * 11月11日：付着硅藻取揚げ
 - * 11月13日：真珠漁協で母母に関する協議会，出席

- * 11月19日：漁場観測
- * 11月20日：鉄板取揚げ
- * 11月26日：付着硅藻取揚げ

○ その他

- * 11月8日：こわかめ培養指導（鹿児島）
- * 11月12日：谷山 わかめ培養指導
- * 11月13日：普及員会議出席

製造部

- サバを原料とする蒲鉾製造試験（継続）
- 核酸関連物質測定（電気泳動法）
- 配合餌料製造（継続）
- 漁業振興祭 審査展示部門担当
- 枕崎市漁業審議会出席
- 乾燥機取扱指導（串木野）
- 当月来訪 かつお節ばい乾法について外24名

調査部

- クルマエビ配合餌料試験関係
 - 11月12日：第4回試験を終了し、現在第5回目試験として継続実施中。
- 11月6日～9日：魚病研究会出席 於：岡山
- 11月24日：華人 タイ魚病調査
- 11月18日：異臭魚採集
- 水質関係
 - 11月1日、19日～20日：川内川病魚調査
 - 11月6日：鹿児島湾水質調査（経済企画庁委託）
 - 11月10日～11日：串木野 蒲鉾製造廃水調査
 - 11月12日：クルマエビ餌料試験水質調査

§ 垂水増殖センター

- クルマエビ企業化試験（継続月間）
- フトミゾエビ・クマエビ養成飼育（継続月間）
- トコブシ生産稚貝飼育管理（継続月間）
- アワビ種苗生産試験開始
 - * 10月27, 28日：第1回目親貝輸送（上甕）
 - * 11月8日：第2回目親貝輸送（根占）
 - * 11月12日：第3回目親貝輸送（上甕）
 - * 11月26, 27日：第4回目親貝輸送（上甕）
 - * 11月18日：第1回目産卵誘発
 - * 11月19日：第2回目産卵誘発
 - * 11月23日：第3回目産卵誘発
 - * 11月28日：第4回目産卵誘発
- 追跡効果調査関係
 - * 10月28, 29日：クルマエビ追跡調査（出水）
 - * 11月7, 8日：クルマエビ追跡調査（志布志）
 - * 11月24～27日：トコブシ放流事前調査（西之表）
- コンプ採苗試験
 - * 11月26日：函館よりコンプ母藻着
 - * 11月27日：採苗～種苗繩1,000m